

夏休み明け初日はカレーでした！



朝とは違って変わって下校時のテンションの高さよ！

台風が来ても走ると言われました。心配です。

「夏休みの宿題は休み中に」
 正論は時に残酷です。人は正論を言われれば「おっしやる」とおりです」としか言えません。でも、「おっしやる」とおり」に出来ないから悩みます。子どもにも指導の仕方によっては残酷な現実を突きつけていることになりまます。宿題が終わらないことが良くないという理（正論）は、子どもたちも理解しています。（と思う）でも、それができないから悩み、夏休みの終わり頃には心の重しとなります。（と思う）人は理ではなく情で悩み、動くのです。理だけでは無い、情まで届くような言葉かけや雰囲気づくりを考えていきたいものです。

一方で、子どもたちは「怒られ上手」になることも必要だと思えます。パリオリンピックで活躍した古賀紗理那選手が、十三年前の中学生の頃、ものすごく怒られている場面を目撃しました。それも職員室のど真ん中で、です。理由は忘れましたが、怒っていたのは部活動顧問です。その間、三〇分ほどだったでしょうが、反発もせず、泣きもせず、少しムツとした表情でじっと聞いていました。やがて、部活顧問も怒り疲れたのか、その指導は終わりました。その後彼女は一切表情を変えることなく、「失礼しました」と言って職員室を出て行きました。その時、その場にいた別の職員が「あいつ怒られ方がわかってるなあ」と、ぼつり言いました。怒られ方に正解があるかなんてわかりませんでしたが、そうなのかなと思って見えました。そして、最近のことです。個人的な話になりますが、私の中学生の娘もクラブの練習でしょっちゅう怒られています。それも、他の選手が気の毒に思うほど怒られていて、ある日、その怒られたいきさつを話しつつ、ニヤけながら娘が言いました。

「私怒られるとき、無だけん」

そこで合点がきました。彼女たちはすでに自分の非を自覚しており（と思う）、怒られている時は言わば消化試合のようなものだったのです。だから「無」なのです。ちなみに古賀選手もうちの娘も、怒られたのは同じ人からです。

余談が長くなりましたが、怒られるというのはミスに対することであって、人格自体が否定されている

わけではないということ。その前提をしっかりと持っておくことが大事です。しかし、怒っている人は感情的になっっていることが多く、人格否定につながるような強い言動もあるかもしれませんが、現在はそれがハラスメントにつながりますが、以前は、怒る人との信頼関係や周辺にいる人たちのフォローが救うことが多かったような気がします。人との関係が薄れ、あらゆるつながりがハラスメントに繋がるこのご時世です。人格否定につながる言動はあつてはならぬことですが、人と豊かにつながり、言葉に含まれる情として受け止められる子どもに育って欲しいとも思います。

夏休み最終日の朝に、学童に来た少年に話しかけたら、まだ宿題が終わっていないとのこと。「終わりそう？」と聞いたら、少年は、「：無理かな」と答えました。気まずい様子ながらも、ごまかそうとしない正直な様子でした。理をわかっているのです。「できるだけがんばってね」と言葉をかけて別れました。あとは彼がどこまで頑張つてやり遂げるかです。そして、ご家族や私たち職員が、彼と情を通じて関われるかでしょう。

昨年も書きましたが、ご家庭では宿題が終わってなくても、「大丈夫。とにかくいってらっしゃい！」と元気に送り出してください。学校でどうにかします。



愛好作業 お世話になりました！ なりました！

暑さ厳しい中、多くの方にご協力いただきました。誠にありがとうございました。おかげさまで大変きれいになりました。今後も教育環境の整備に努めてまいります。